

令和3年度
第1回大野市総合教育会議
会議録

日 時：令和3年7月13日（火）午後1時～2時35分

場 所：富田小学校

大野市総合教育会議

日時：令和3年7月13日（火）

午後1時～

場所：富田小学校

校内見学、授業参観（午後1時～1時40分）

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項

（1）学校におけるタブレット端末の活用状況について

（2）その他

① 夏季休業中の子どもの居場所づくりについて

② その他

大野市総合教育会議出席者名簿

	役 職	氏 名
1	市長	石 山 志 保
2	教育長	久 保 俊 岳
3	教育委員 (教育長職務代理者)	馬 道 保
4	教育委員	松 谷 由 美
5	教育委員	松 田 輝 治
6	教育委員	羽 生 た ま き

(事務局)

1	行政経営部長	吉 田 克 弥
2	政策推進課長	山 崎 勝 彦
3	教育委員会事務局長	真 田 正 幸
4	教育総務課長	横 田 晃 弘
5	学校教育審議監	千 田 佐
6	こども支援課長	加 藤 智 恵
7	生涯学習・文化財保護課長	佐 々 木 伸 治
8	教育総務課課長補佐	小 林 勝 信
9	教育総務課企画主査	藤 本 久 実 子

< 傍聴者 >

1人

1 開会（午後 1 時 50 分）

―― <市民憲章、教育理念唱和（省略）> ――

2 市長あいさつ

お忙しい中、総合教育会議にご出席いただき感謝申し上げます。

本日は、会議の前に富田小学校の教育風景を見せていただいた。ご準備された富田小学校の皆様、感謝申し上げます。

さて教育委員の皆様におかれましては、教育行政の執行部門ということで、日頃から充実した内容でもって執行いただいていることに、感謝申し上げます。

ご承知の通り教育委員会の部局と、また私の方が担当している市長部局の方と、それぞれの役割分担をもって教育行政をしっかりと進めていく、そのために総合教育会議を開催している。

先ほどは、昨年度にギガスクール構想で進めてきた、1人1台のタブレット端末の配備と、それを使用できるような環境を整えてきたので、実際にタブレット端末を活用した授業をご覧になっていただいた。

本日の議題は、学校におけるタブレット端末の活用状況について、意見交換をさせていただきたいと思っている。

また、夏季休業中の子どもの居場所づくりについても、いろいろと意見交換ができればと考えている。

3 議題（進行：総合教育会議設置要綱第4条に基づき市長が務める）

（1）学校におけるタブレット端末の活用状況について

【市長】

それでは、早速議題に移るが、あいさつで触れたとおり、富田小学校のタブレット端末を活用した授業風景や児童、また先生のご様子などをご見学をいただいた。今日は、これからの学校教育の充実について、意見交換をしたい。

小学校の現場に入って見ることは私自身も実はなかなかなく、関心を持って貴重な経験等ができたと思っている。

まずは、教育委員の皆様から、是非とも率直なご感想、またご希望やご意見があればお伺いしたい。

【松田委員】

1人1台タブレットを持っているということで、今の子どもらしいなと感じ、廊下に貼ってあったでき上がったものもを見せていただいた。

子どもたちが学んだものが全部先生のところに集約されて、その結果をまた先生の端末でプリントアウトして、形が見えるものにできることは、今の時代の子供は幸せだなと

思う。

また、今日の授業では少ししか見えなかったが、多分立体的にも見られると思うが、いろいろなことでタブレットを使用できたらすばらしいと思う。

家庭ではタブレットでゲームばかりしていて、どのように時間を短くできるかという話もしている。

今後は、一步踏み込んで、家庭に持って帰って宿題をしたり、自分で創造したものを、先生に提出できるような形にしたり、重たいカバンを持たなくても、すべてタブレットで処理できるようになるのではと思う。

ただ、学校での環境と、各々の家庭の環境が違うので、行政として家庭での環境をバックアップできるような形にすると、より有効な形でこのタブレットが使えるようになる、と今日見学しながら感じた。

【羽生委員】

30年近くぶりに小学校の授業を見て、教育環境のギャップが埋まらない自分がある。児童は、本当に適応能力があって柔軟だなということを感じた。

タブレットについては、近所のお子さんにも聞くと、「図鑑とか、いろんな昆虫とかお花もズームで見られたりもするので、それは非常に勉強になるよ」ということも聞いている。

このタブレットを使うことで、多様性と可能性がすごく充実して拡大していくのだろうということも感じた。これがどんどん軌道に乗れば、ちょうど今機構改革で「こども」というひとくくりになったので、保育所や幼稚園、小学校、中学校、高校間の縦の軸、あるいは市内における横の学校同士のことも、こういうものを活用すると上手く行くのではないかという可能性も感じた。その一方で、今日の新聞に2025年度ぐらいから全国の学力テストもPC導入ということが書かれていた。

今日見せていただいた中では、比較的若い方が担任をされていた。小学校は1人の先生がたくさんの授業を持たれることが多いが、デジタル化が進むことで今までの授業準備と比べて、ペーパーレスも含めて、先生のご負担や授業準備の軽減ということはどうなるのかが知りたいところである。

【松谷委員】

先日、自分の子どもの学校の授業参観に行ったが、タブレットを使用していたこともあって、こういうふうを活用しているということ踏まえてきたつもりだった。

富田小学校は、割と進んでいると思った。全学年の授業を見ることができて、各学年のレベルに合わせて課題を設定していたということなど、とても興味深く見させていただいた。

共通して、子どもたちは適応が早いなとすごく思った。子どもの適応能力の早さというのは、画面を見ることが小さいころから慣れてることなので、それに付随して、自分の考えをどんどん発信している。頭の中で考えていることを言葉に発することができるように、

先生たちが引き出していたので、そういう場面を見て頼もしさを感じた。

例えば、難しい漢字は小学校では習わない、バラとかキリンとか、とても複雑な漢字なども、子どもだったらイメージでパッと覚えたりするので、実際書かないが画面で見て習得できるという利点はたくさんあると思う。漢字だけでなく、他の分野でもすぐに習得できるという子どもの能力があると思う。

【馬道委員】

廊下の掲示などを見ると、前からやっているようなことを実践しているなっていうことを感じました。

良い事は続けている一方、授業の風景は自分たちの時と一変してしまったなという感じがした。

教師の指導方法はもちろんだが、その子どもたちの答え方など、雰囲気と言うかあらゆる面で変わったなと感じた。

1年から6年生まですべての学年でタブレットを使っているのを見て、本当にすごいなという印象である

復習やレポート、新聞作りにタブレットを使用するとか、或いは図形の移動や話し合いにそれを使って、プレゼンをしているなどの授業風景を見て、本当に、社会に出ても必要な力がつけられると感じた。特に6年生のプレゼンをしている様子を見ると、タブレットを使って発表するということが、随分と話す力が付いてきていると感じた。タブレットを大型テレビに映し、それをみんなで共有しながら話すことで、どのように自分の意見をしっかりと述べるかという力がものすごく付くとも感じた。

また、教室に入れたい子どものために、タブレットを置いてライブ中継をしているという説明があったが、陽明中学校でも同様のことをやっている。教室に入れたい児童や生徒にとっても、ライブ中継の授業を受けることでみんなと一緒に教室に居るという気持ちになる、そういう使い方もできていいなと思う。

さらに、いろいろ教材も使って、自分に合わせた自分なりの勉強や復習、家庭学習もできると期待している。

【市長】

私も4人の教育委員の方と同じような印象を受けた。

一昨年に、先行してW i F i ではないタブレットを少し入れた時に比べ、今日の授業は格段に進んでいるという印象を受けた。

1年から6年生までの各学級がすべて同時に使われ、それぞれの先生が非常に修得されている様子がありがたく感じた。授業で間違いなく問題なく情報がやりとりできていたので、環境としてはしっかり整えられたのかなと、安心して見られた。今までに出されたご意見を今後の課題という形でまとめると、むしろ期待されていた意見が多かった気がする。

一つ目はタブレットがコンパクトであるがゆえに、タブレットに集約してランドセルやカバンを軽くできるのではといったご意見があった。

二つ目は、家庭に持ち帰って学習に利用できるよう、セキュリティや使い方の面も含めてだと思うが、そうした家庭利用ができるような環境にするためのバックアップができないかというようなご意見があった。

三つ目は幼保小中の連携と、それから学校と横の連携などに向けた活用への可能性を感じる。

それから先生の教材として使うにあたり、これからどんどん社会が変わっていく可能性がある、そうしたところのバックアップの必要性があること。利用の幅広さといった点では、先ほどから出ている富田小学校の方針で、「一人一人を大切に作るインクルーシブな富田小学校」を第一の方針に挙げているが、教室に入れないお子さんに配慮することにも活用できる。

また、目で見てすぐに習得できるというような形で、使い方がどんどん変わっていくということもあるが、いろいろな分野で子どもの可能性を引き出せることにも活用できること。

百聞は一見にしかずと言うが、市民の方々にも学校でこういう教材の使い方をしていて、子どもたちはこんなに柔軟に対応している、先生方も頑張っているという姿を知っていただくために、大野の教育環境はこうだよということをちゃんと伝えていく必要性を感じた。

【教育長】

今日の目的のまず大きい一つは、市長、教育委員の皆様と学校における教育の変化、現状の共有をさせていただくことで、会議の場所を富田小学校に設定した。

ご意見を伺う中で、学校でしっかりICTについても進んでいると実感をいただけたと思う。

実際に見ていただいたことを踏まえ、校長からは何度も、今のところ本当に試行錯誤の段階だという言葉が出ていた。

とにかく使ってみて、慣れて、そして、どこに問題があるのか、どういう効果があるのかということをしっかり検証して次に進めたいと思い、チャレンジをしているところである。

教育委員会として、市としても、学校をどのようにサポートできるかということではないかなと思う。

例えば、ICTに関する教員の自主研究会もあるが、しっかりした研修体制を構築して、いろいろな課題を全員で、早く解決をしていくということが大切かと思う。

あくまでも、タブレットを使うことが目的ではなくて、それをどう有効に使えるかという段階にあまり急いではいけないが、なるべく早く、そちらの方向にいけたらと思う。

二つ目は、SNS社会に対していろいろな課題が出てきている。今までは、学校でも指導はしていたが、家に帰って使うときにはという前置きがあった。

しかし、これからは、目の前にタブレットがあるので、今の社会に対してどういう使い方、どういう対応をしていくかということ、子どもたちと一緒に考え指導ができるところも、非常に大きい変化であると思っている。

今日はいろいろな角度からご意見をいただき、今後の学校の方向性を少しでもよくできたらと思う。

【市長】

現場で、日々ご努力いただいている部分なので、本当にご意見、そのとおりだなと思う。今日は学校教育の現場ということで、このように拝見させていただいたことに心より感謝申し上げます。

また、大野の学校教育をこういった形でやっているということを伝えていきたいと思う。

(2) その他

① 夏季休業中の子どもの居場所づくりについて

【市長】

次は、その他で「夏季休業中の子どもの居場所づくりについて」だが、今年度も、パッケージにまとめた子育て支援を部局横断して取り組んでいる。

夏休み中の居場所づくりについては、大変大切な項目ということで、今回一つにまとめていくことができたので、事務局から報告を受けたいと思う。

【こども支援課長】

子どもたちの夏休みの居場所、活動場所の情報提供として、「夏休みわくわくカレンダー」として作成した。これは、市役所の各課、また各公民館で企画する教室や、イベントなどを一目でわかるように取りまとめたものである。

今までも、それぞれの担当で、広報紙やホームページ、LINE、公民館報などで広報していたが、取りまとめて情報発信をすることで、子どもたちがいろんな行事があることを知って、いろんな体験をしてもらうために作成した。

カレンダーは行事名と実施する日だけにしてあり、詳しい内容は最後のページのQRコードを読み取って調べ、申し込みをしてもらうという形にしている。現在、印刷中で今週末にすべての小中学生に配布をする予定である。

【松谷委員】

子どもが学校から持って帰ってくるお便りでは、こんなにたくさんの情報が一度に見ることができないので、このカレンダーはとても良いと思った。

例えば、絵本の読み聞かせや化石ギャラリートークなどのお話で進めていくものは、学校から持って帰ったタブレットや家のタブレットで、オンラインで見ること、聞くことができれば、もっと有効なものになると思う。

最近では、世界中でこのようなオンライン参加型事業が増えてきているので、ぜひ、大野市でもこれが広がっていくと良いと思った。

また、児童館に行っている子どもたちも多いと思うので、児童館で何時から何時まではこういうものを見ようという声かけをするなど、有効活用していくと良いとも思った。

それから、今年はプールの授業や夏休みのプールも限られているので、運動系の子どもたちが体を動かすことにもどんどん声かけをしてもらい、活動できるようになると良い。

【馬道委員】

去年は夏休みが2週間ほどしかなかったので、割と子どもたちは計画を立てやすく充実した休みを送れたと思うが、今年度は、例年通りの40日近くの休みがあり、子どもたちにとっては本当に長い休みで、何かをすることを考えるのは難しいなと思う。

このようにカレンダー形式でイベント等が載っていて、子どもたちにとっても、親にとってもありがたいと思う。

学校以外のところで、いろんな学習ができることもありがたいと思う。図書館との連携で宿題の支援とか、あるいは化石の勉強、夜は星空ハンモックというふうに、大野の自然を生かした取り組みがあつて良かったなと思う。

特に今、越美北線の存続も含めて大野市が進めようとしている政策や施策に則った行事もあり本当に素晴らしいと思う。星空ハンモックも、これから六呂師の星空をPRしていこうという中で、まず大野に住んでいる者がそのような体験をしないと、良さが外へ繋がっていかないと思うので、このように施設とのタイアップでいろいろな行事や教室などが組み込まれているというのは、子どもにとっても大人にとってもありがたいなと思う。

【松田委員】

この夏休みわくわくカレンダーを見て、ありがたいなと思った。実際に、夏休みは、親世代でなく私たち祖父母世代が子どもと付き合うことが多いので、一覧表にしていただけのはありがたいと思う。QRコードを読み取れない人でもわかるような工夫が欲しいなと思った。

また、紙面の関係で、なかなか難しいとは思いますが、市の施設だけでなく県の施設とか、もう少し広げて半公共的な団体が実施しているイベントなども載っているとありがたい。

県の施設、例えば自然保護センターで、土日にプラネタリウムをやっている。昼間の星空観察はできない時もあるがプラネタリウムは小さい子でも見られるので、そういうものも載っていると気楽に行けると思う。カレンダーを作るときに、なかなか大変だが県とも連携して県内の施設の中で、公共交通機関を使って行けるようなものも入れると面白いと思う。

【羽生委員】

自然保護センターはおすすめの場所だが、県の施設なので今後こういったものに取り入れていくことも考えてほしい。

児童館がない地区の公民館も頑張つて、非常に多くの催しをされている。引っ込みがちにならずに、ちょっと出ておいでということで、たくさんの催し物を企画されているのは、本当にありがたいなと思う。ここには載ってないが子どもチャレンジ教室を、近所の子はすごく楽しみにしているということも言っていた。

全体的に見て、隙間がないようにいろんな方向性からこういうことを打ち出していることは、本当にありがたいと思う。

【市長】

もともとこういった形でまとめてということではなかったが、職員が自発的に今回やってくれて、ここまでできたということにまずは感謝したい。

良いものができる、次のアイデアがたくさん出てくるので、なかなかこれ以上の物はプレッシャーがかかり大変だなという気もする。

今年度は部局横断でいろんな形の中でまず、それぞれ企画をしてカレンダー式でまとめて、保護者や祖父母向けにご提供できる状況まで来たということがとても良いと思う。

コロナ禍の期間が長くなっているが、引き続きコロナ対策をしていかななくてはいけないので、市外あるいは県外にはなかなか行きづらいという中で、大野市内で夏休みを楽しむ満喫するという工夫が欠かせない。

家の中でずっと過ごすことはなかなか大変なので、大野市内で少し楽しみも兼ねて行ける場所、これを探すというのが実は40日間の辛さで、そこに着目して、子育てパッケージの中で、夏休みの子どもの居場所づくりということを立ち上げたというのが経過である。今回ここまでの形になって、皆様のご反応を見ると、やってきて良かったと思う。

ぜひとも保護者や祖父母の皆さんにしっかり使い込んでいただき、夏休みを満喫してもらえるとありがたいと思う。

カレンダーに載せられる施設や情報については、今後の課題として実態を見ながらやっていけたらと思う。

【教育長】

まず、根本として子育て応援パッケージが非常に大きいと思う。

4月当初よりこども支援課から、夏休みに向かってこれをやるといういくつかの中に、カレンダー作成がまず出てきた。そして教育総務課、生涯学習・文化財保護課も含め、教育委員会事務局トータルとしてこのように作ることができたことで、機構改革の方もスムーズに進んでいる一つだと捉えている。

大野市全体で子育てをするというイメージ、コンセプトの上にこれできてきていると思っている。今日は学校の授業を見たが、学校だけでは子どもの教育は当然できず、家庭、地域も一緒になって、市全体で教育を支えるというコンセプトである。

また、子ども達の主体性を意識している。言葉を変えれば自分から動き出せる子どもの育成を、市全体として取り組んでいるところである。今までの断片的な情報を総合的にまとめて、選択できる機会を提供できるようにした。

今後の改善は必要と思うが、その中で子どもたちが、もっと深く調べようとか、もっと違ったところを探索するなどを意識しなければならないが、そのあたりでどこまで準備をするのかということも、これから考えていく必要があると思っている。

【市長】

せっかくの夏休みなので、子どもたちと楽しんでいただいで大野市を満喫していただきたいというのが、実は私からの願いとなる。

最後になるが、昨年度関西大学の方の研究発表で、地元への郷土愛が育成される期間は小学生期だ、というようなことを仰っておられた。

そのような中で、大野の自然を生かしている体験や、越美北線に乗ることやハンモックをしたという、思う存分夏休みを満喫できる、体験が今回そろっているということについては、各部署が一生懸命アイデアを出した成果だと思っている。

子どもだけでなく保護者や祖父母の皆さん、我々や市役所の職員、教育委員会の職員も、みんなでこの夏休みを満喫したいと思う。

② その他

なし

4 閉会

午後2時35分終了